

保 育 か な が わ

発行所
横浜市神奈川区沢渡
4の2
神奈川県保育会
発行人
鈴木萬吏
題字
故 内山岩太郎 筆

近 況 報 告

会長 鈴木萬吏



画期的な厚生省予算原案が編成され八月下旬に大蔵省に提出されている。今回はじめて老人福祉と並んで児童家庭関係を大きな柱としていわば二本柱として構成されている。このことは厚生省は今までで以前のことである。保育所の機能強化と共に乳児保育については対象制限を廃し、乳児保育指定保育所（乳児三名以上・一定設備必要か）に、保母一名を増員し、七名以上の場合には補助金を計上している。この予算の成立を切望せずにはいられない。今年予算策活動は正念場にさしかかって

いる。特段の御協力をお願い申し上げる。ある席で私は「老人福祉問題は対症療法的側面が強いといえるが、児童福祉は根本的な生理学的なものであり児童福祉の理念や哲学を考究した上で政策を立案すべきではないか」と主張したところである。ともあれ永年の念願であった三対一乳児保育の実現に大きな一歩を踏み出す絶好の機会を国自らが強力に進めているこの機会に我々は強力に予対活動を展開し厚生省をバックアップしなければならぬ。勿論この予算が決したからといって全て萬々歳というわけではなく新たな問題も発生してくるわけで、例えば児童の増減によって職員定数の変更があり、これに加えて四週六休制の普及が及ぼすこれ又新たな大きな課題として取組まざるを得ない。

次に県保育会では全国保育協議会とのより一層の連携を深め且つ又地域代表の委員の先生方に直接会務の執行を分担していただく為に専門部制をとり、総務・研修・調査研究・広報・予算対策の五専門部と公立部門・給食問題・表彰の各委員会を設け活動をしている。従来の正副会長庶務会計を執行部とした体制から全委員の執行体制に大きく転換し活性化をはかったものであり適任の専門部員の各地域からのご推挙によって更にこの充実をはかりたいと考えている。

保育指針の改定についても県保育会では調査研究部で検討いただき全国保育協議会に意見具申したのであるが、本県内でも厚生省の保育指針改訂作業に直接現場の立場で参加されている先生もおられる。

最後に来年七月は第三〇回関東ブロック保育研究大会が本県を当番県として開催される。諸般にわたる御支援をお願い申し上げます。

第22回 神奈川県保育事業大会

於 神奈川県社会福祉会館

第二十二回神奈川県保育事業大会が例年のように県保母会との共催、神奈川県と県社会福祉協議会、神奈川県民間保育園協会のご後援により去る五月二十一日に行われま

した。大会はまず県福祉部長をはじめ来賓の方々のご臨席を戴き式典からはじまりました。会長の挨拶、百五名にのぼる永年勤続者の表彰、来賓祝辞とつづきました。

次いで保育会と保母会がそれぞれ総会を開催し、昭和六十二年の事業報告と決算、昭和六十三年度の事業計画と予算案を審議しました。そしていずれも原案どおり承認されました。

午後から、園長部会と保母部会にわかれて研究討議を行いました。園長部会ではいまいずみ保育園の草山園長が「都市における保育条件のあり方」とひばりヶ丘保育園の稲川園長が「幼児福祉教育」をそれぞれ発表されました。お二人の発表は、次の関東ブロック保育研究大会の報告に詳しく述べておられますので省略しますが、「都市における保育条件」に関連して助言者の山田全社、協児童福祉部副部長の「いまや保育園は、それに対するすべてのニーズに 대응することが必要ではないか」という趣旨のご助言が印象に残りました。

最後の全体会議で研究討議のまとめと山田、前田両氏のご助言をいただき総ての日程を無事終わりました。

第29回 関東ブロック保育研究大会開かれる

主題 明日をひらく保育を考える
—子供、家庭、地域の現状と保育機能—

場所 いで湯の町静岡岡修善寺町
参加者千二百余人

若さあふれる保母会の美しいコーラスのハーモニーで歓迎の幕があきました。

開会式、総会、基調講演に引き続きアトラクションの迫力あふれる修善寺太鼓には暑さと眠気を吹き飛ばす力強さを感じました。会場は物音一つせずしんと静まり返っていました。各分科会では、子ども、家庭、地域の現状と保育所の機能というサブタイトルをかかげて各地から熱心な研究発表が行われました。フロアからも活気ある質問、助言者のアドバイス等生きた研究討議が行われました。最後の日は作家の村松友視先生から「人間は最高の風景として」というすばらしいお話、聞く人を



誘い込むというか飽きさせない心地よいお話。さすがプロだと感じ疲れを残さず帰途につけた大会でした。

暑い中での三日間の「関東ブロックの保育研究大会」でしたが、実り多い大会となったように思います。最後に神奈川県保母会員による「次回は神奈川県であいましょう」の横幕の流れるうちに大会は終了しました。

次に神奈川県から提出した二つの貴重な研究発表の一部を記します。

都市における保育条件のあり方

草山 充

毎年楽しみにしている関東ブロック保育研究大会に今年は見見発表者として参加しました。

「都市における保育条件のあり方」についての発表は、神奈川県保育事業大会（神奈川県保育会主催）で検討されたものを土台としたもので

一 労働時間短縮が要請されている中で乳児保育・延長保育の実施に今の常勤者偏重の職員体制で対応出来るのか。

二 一時保育・地域の育児センター的機能を果たす為の保育体制と職員教育はどうあるべきか

三 乳幼児の健全育成という視点から保育を問い直すことを中心に少ない実践の中からお話ししました。

発表は誠に不十分であったにも拘わらず参加者のそれぞれが、自分の考え方や実践を生き生きと発言し、それと同じ熱心さで相手の

話に耳を傾け、時には議論が沸騰し、感心したり発奮したりで時のたつのも忘れる程でした。

行政・理事者・施設長・保母・栄養士・調理・事務と様々な職種あり、公・私あり、老・若あり、地域性も多に出て、非常に興味深い内容でした。

会議が終つての賑やかな懇親会で疲れを癒し、部屋に帰れば初めて出会う方ともじっくり本音の話も出来るし、何よりも新しい同志が沢山増えたのがとても充実した思いにしてくれました。

ともすると自園に籠り勝ちな保育所職員の私にとって保協の関わりは毎年最高の勉強であり楽しい経験となっております。

さいわい来年は、手近な箱根「小涌園」で開催されるので、他の職員にも是非参加の機会を作ろうと思ひます。

今、暖かい心の体験を

稲川 絹子

今は、物が豊かになりました。しかし人の心はどうでしょうか。人間らしく豊かに生かされているでしょうか。核家族化、一人暮らしの

老人の増加、人間関係の希薄化、自然の喪失、母性愛の欠陥、家庭の崩壊など本当に考えなければならぬ問題が多く重なっております。その為に私たち保育者は今何をなすべきでしょうか。

人間として自立する為の基礎となる大切な時期にある幼児に対し、老人や障害児との交流、動植物の飼育栽培、地域活動への参加、自然や音楽とのふれあい等を通じ、「福祉の心」を培うための実践活動を行うことにより、人間味豊かな児童の育成を図ることの重要性を痛感し二年間にわたりこのふれあい事業に取り組みました。

そして都市化された生活環境から生じた子どもの心の問題、核家族化で生じた老人の問題も取り入

れ、実践内容、展開、子どもや老人の実践活動効果等、スライドで実践例を発表いたしました。

実践の後に望むことですが、保育園は喜びのあふれる楽園、心豊かな人間に育てる心の園、心の泉であり、子ども達が喜んで生きる喜びの体験を多く重ねる環境、その為に教育的なよい環境を作り生

かす、保育者は常に暖かい太陽のように心の中に「真剣に愛情を持つてかわる。情熱的に生きる。あふれる程の喜びを常に抱いている。」生命の通った暖かい心の動く環境であり、子ども達が、今を、今日を精一杯喜びの中に生きて、明日への希望、期待につながり喜びの保育が明日に流れて行くように。保育者は豊かな心を持つ人間に成長する為の大切な幼い時期に、「暖かい心」の芽を育てる使命感を持たなければならぬと思ひました。

各部スタート

県下の公私立の保育園で組織する保育会は、各市町村の保育会の代表者によって委員会が構成され、全国保育協議会に直結しているという点で、県を代表する保育組織です。この度全国保育協議会の機構に合わせて部制を敷きました。保育会が、更に活性化するように期待しています。

総務部

部長 富田 英雄

今迄県保育会が行なってきた、大会や研修会など各種の事業は、執行部で原案を作製していました。

部制が敷かれた今年は執行部がなくなつて、副会長を部長とする各部に、事業が分散したため、総務部は今迄の執行部より、仕事の量が減るだろうと予想していました。が、とんだ見当違いでした。

庶務的な仕事を含め、会長からいくつかの諮問の検討をはじめ、日程や各部の調整など、今迄気付かなかつた仕事の多さに驚いています。もつとも今年は、昨年の事業を踏襲しようとしたため、各部

の会合に総務部員が出席することにしたせいで、部員一同『てんやわんや』のおおいそがしです。

各部がそれぞれ手さぐりで活動を開始したために、この部制を定着させるためにも調整機関が必要と考え、部長会を発足させました。が、総務部の仕事はこれからどんどんふえそうです。

委員全員がどこかの部に所属したために積極性が増したのでしょうか、最近の委員会は殆んど欠席者もなく会議室は活気に満ちています。この調子でいけば、来年神奈川県が当番となつて箱根で開催される関プロ保育大会の成功疑いなしと感じつつ、頑張っています。

調査研究部

部長 渡辺 健司

調査研究と聞いただけでも肩の荷が重くなる私が、今回、自ら行動する立場に置かれ毎日が頭痛の基になっております。幸い十名の委員の先生方に所属していただけたことで心強い次第です。

さて、保育所を取りまく問題は数多くありますが、調査研究部の初仕事は現在進められております保育指針改訂に伴う、県下の要望を取りまとめる作業でありました。与えられた期間が二ヶ月でしたので、県内の諸先生からのご意見を伺うまでにはなりませんでしたが、各委員から出された要望を、調査研究部でまとめ七月中旬に保育所保育内容に関する研究委員会宛に提出いたしました。

今回の改訂は、女性の社会進出や零歳児などの割合が増えたことが主な理由とされますので、改訂作業では、延長保育、夜間保育、乳児保育、障害児保育などでの専

門家の高度な意見が取り入れられるべきであるとし、また21世紀に向けての指針づくりを強く要望いたしました。

具体的には、延長保育、乳児保育、夜間保育では、保育者の判断力にゆだねられることが多くなる一方で、母親代わりとなることや家庭的配慮が重要となるので、その場合における留意事項とか、言葉のない子や、喜怒哀楽に欠ける子など数項目に分けて報告しております。さて、近年、地方重視の保育制度改革と関連政策が次々と打ち出され、制度そのものが見直されようとしておりますので、調査研究部としても、この辺に次の目標を定めて制度の後退を絶対に許さない、地域一体となった保育所となるよう資料集めをしてお役に立ちたいと思っておりますので諸先生方のお力添えを、ぜひお願いいたします。



研修部

部長 長谷川 保

六十三年度県保育会研修部では、園長研修、主任保育研修、調理員研修と新に二十一世紀に向けて、「西暦二千年代の保育所を考える会」を発足させることになりました。

これは、あと十年位でやってくる二十一世紀の保育にも対応できる、いわば保育所の基盤強化を考えていこうというもので、研修内容も単に保育の領域だけにとどめないで、政治、経済、文化、社会の諸分野に亘る将来の変化を読みとろうとする計画です。そのような社会の変化に保育所はどのように対応していくのか？という勉強会です。

あります。方法として各地域から選出の委員の方々に企画運営していただくことを考えております。いずれこの研修会が開催される時は、県下の多くの先生方のご参加をお願い致します。

従来からの三つの研修会も、そのまゝ、継続して参りたいと考えて

おります。つまり、開催順では

主任保育研修会

調理員研修会

園長研修会

となります。会場の都合等で余り沢山の人数にお集りいただくわけにいきませんが、通知が届きましたら積極的なご参加をお願いいたします。

今更申し上げるまでもなく、私

たちにとり研修は極めて重要なものと考えます。その多くは、明日からすぐ役立つというものではないでしょうが、いつかある場面では必ず活かされるように思います。また、個人で勉強する方法もあるでしょうが、同業の人達が皆で同じテーマを考えたり、話し合ったり、話をきいたりすることで、より明確にものごとが理解できるといふ長所があると思います。どうか研修部をよろしくご指導ご支援下さいますようお願いいたします。

予算対策部

部長 石野きよ子

保育制度の充実、保育予算の確保を目標に国及び地方自治体に対する運動は、国の保育行政に一定の歯止めをかける役割をはたしています。又、紹介議員の依頼、陳情を通じて、広く衆参議員の方々に保育問題への理解を拡げる役割も果たしてきました。

今後は更に、保育所措置制度の確保ならびに保育制度の充実に向けて国及び地方自治体に対する運動に合せて、最重要課題としては、国庫負担率の復元に向けての運動を各方面団体と連携して行います。

一、保育制度の充実ならびに保育所問題対応に関する運動の展開。

二、国庫負担率復元に向けて、各関係団体及び地方自治体立対策協議会との連携。

三、保育所の問題状況の把握とその対応を行う。

— 調査研究部との連携 —

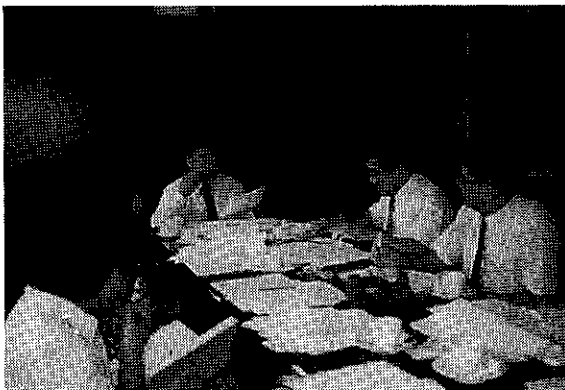
四、延長保育、夜間保育の推進と諸問題の検討。

五、保育ニーズの多様化に対応し、保育所機能強化の推進方を検討。

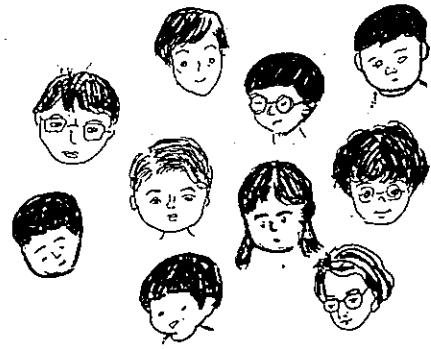
六、今後の保育所における実態からみて最低基準の再検討。

七、乳幼児健全育成相談事業の推進。

八、保育議員懇談会の開催 — 保育議員の確保 —



広 報 部



「保育かながわ」の題字は、故内山岩太郎氏が知事在任中に揮毫されたものです。今年三十号を数えました。この度広報部に昇格しスタッフもそろったのを機に、更に充実した紙面づくりを目指します。

富田英雄

新しい会則に伴い広報部が発足し、新米委員が副部長をおおせつかりとまどっています。ベテラン先輩の後について早く一人前になれる様努力していきます。よろしくご指導ご支援下さい。奥村和昭

人は締め切りが迫らないと、なかなか書く気がせず毎日をのんきに過ごしてしまう。「のんきと見える人々も、心の底をたたいてみるとどこか悲しい音がする。」
こんなセリフを読んだことがある。私ののんきはどんな音がするだろうか。

登原由子

来年度予算の概算要求の内容が発表され、厚生省は児童対策を高齢者対策と並んで重視する方針を打ち出した。これを保育所制度の充実に生かせるか否かは、我々自身にかかっている。草山 充

広報の委員はひと昔も前のことで今回久々です。社会情勢がかわつてきておりますので「保育かながわ」をとおして先端情報のお届けと勉強をさせていただきます。

冨米野知子

この度、広報部の担当になりました。はじめての事なのですが一生懸命頑張りますので、皆様のご指導ご鞭撻のほどをお願い申し上げます。

水野 寛

初めて広報のお手伝いをするようになってとまどうことばかりですが、先輩方のご指導をいただきながら、皆様方に親しまれる「保育かながわ」作りをめざしてがんばりたいと思います。小林幸子
地域の都合により初めて委員として出席し、種々の保育事情に大変ご尽力されている先生方の実情に触れ、保育会の大切な役割を改めて感じました。広報部員になりました岩沢です。

県保育会が新しい組織で運営されることになり活性化することになろうが、これに伴い、タイムリーな情報伝達などが重要な役割を果たすものと思う。活性化のため、微力を尽したい。小泉直見

保育会の広報部員として勉強させて頂くことになりました県保母会の重城と申します。広報活動が微力でも広がりますよう努力して参りたいと思えますので、よろしくお願い致します。

▽ご冥福をお祈りいたします

川名 洋氏(前初声保育園園長)

昭和六十三年七月二日逝去

▽県保育会主催の研修会、行事等

1 主任保母研修会

日 昭和63年11月8日〜9日

所 湯河原町「ホテル観山」

演題 「保育現場におけるキー・

パースンの資質と役割」

京浜女子大学講師 箕原 実氏

「最近の保育情勢」

県保育会会長 鈴木 萬吏

2 施設長研修、調理員研修、㊦

「西暦二〇〇〇年代の保育所を考える会」研修、保母の前夜

祭等が開催される予定

▽第32回全国保育研究大会

日 11月29日12月1日

所 こどもの城・全社協ホール他

▽関プロ神奈川県大会 64年開催

(7月18日〜20日 於 箱根)

神奈川が開く日本の保育、新たな展望。会員の一致協力で大

会を成功させましょう。